広義のウメノキゴケ属は40近くの属に分けられたことがあるが，最近の分子系統学的な解析による属の統廃合が，このところ活発に行われている．その一環として，Blanco ほか（2005）は *Canomaculina*（オオマツゲゴケ属），*Concamerella*，*Parmelaria*，*Rimelia*（マツゲゴケ属）を *Parmotrema*（ウメノキゴケ属）のシノニムとし，*Parmotrema* へ移した場合の19の新組み合わせを提唱した．ここに示された属の統合は，形態や化学成分の研究においても同じような結論が示唆されていたので，納得のゆくものであるが，提唱された新組み合わせの中に，命名規約上使えないものがあるので，それらに対して新名を提唱した．

（Botanical Gardens of Toyama 富山県中央植物園）

新　刊

□豊橋市自然史博物館：**標本をつくろう　植物・菌類編**　61 pp．2005．¥400＋送料¥210．A 5 版．同館．ISBN: 4-924906-17-4.

豊橋市自然史博物館ガイドブックとした標本作りの手引き書である．各地の博物館や標本関係者の協力を得たもので，説明はイラストや写真を多用したわかり易い記述で，初級，中級，上級とレベルに応じて選択できるようになっている．押し葉ばかりでなく，種子，果実，葉脈，原色押し花，ラミネート標本などについても触れられている．採集番号を付ける必要性が重複標本や台帳との関係で述べられているが，もう少し突っ込んで，押し葉では表現できない形や性質の記録を勧めたらよかったと思う．ラベルの記述が標本の価値を左右すること，植物名は必須条件ではないこと，年月日の記述を誤解の余地のないようにすること，産地のローマ字書き併用，マウントする必要はないことなど，大事な指導である．また産地の位置記録に経緯度を「ぜひ書くようにするとよい」と勧めている一方，流行の国土基準メッシュには触れていないのは一つの見識と思う．水草，海藻，きのこ，変形菌類，コケ，地衣の標本製作についても記述されている．入手には同博物館（441-3147 豊橋市大岩町大穴 1-238．tel. 0532-41-4747）に現金400円と切手210円を現金書留で送ること．こうすると書留の送料は 510円である．（金井弘夫）

□大場秀章：**大場秀章著作選 II　植物分類学・植物地理生態学**　443＋43 pp．2006．¥4,800．A 5 版．八坂書房．ISBN: 4-89694-789-4.

選集 I は文化史にかかわる話題だったので、通して読めたが、この II では 1．極限に生きる植物，2．生態系の保全と植物学，3．日本の自然と植物の多様性，4．植物の分類と生物地理と分かれていて，著者の40年にわたるさまざまな年代の作品が集成されているので，通読するよりは拾い読みの方が適しているかも知れない．1．ではヒマラヤをはじめ各大陸の高山帯の植物についての知見，2．では環境の変動に伴う野生植物の保護の現状と方策，3．では日本の植物的自然のあり様，4．ではいくつかの分類群についての見解とその手法についての論考が集められている．主要著作一覧として和文129，欧文111 編の著作，論文が挙げられており，これで「主要」なのだから，著者の多才ぶりに驚かされる．初出一覧，事項索引，植物名索引がある．

（金井弘夫）

□大場秀章（著）・冨山　稔（写真）：**ヒマラヤの青いケシ**　223 pp．2006．¥3,400．A 5 版．山と渓谷社．ISBN: 4-635-22999-8.

Meconopsis の全種を網羅した和文のモノグラフである．前半はメコノプシスの生育環境，発見の歴史と，それを演じたプラントハンターの物語りで，著者の得意とする人間関係の描写で読ませる．後半は分類体系と検索表および種ごとの記述に当てられている．大

部分の種類について生品か押し葉標本の写真を伴っており，こういう話題性の高い植物群について，一般向きにも歓迎される本だと思う．生品の写真は，いずれも見事な出来ばえである．（金井弘夫）